

緑区緑学区

災害時避難行動マップ

～みんなで心の輪をつくらう～

この避難行動マップは、大規模な地震や風水害が発生した場合を想定し、緑学区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したものです。
この避難行動マップをもとに、「いざ」という時どんな行動をとればよいか、日頃から考えておきましょう。

指定緊急避難場所

・洪水・内水氾濫、崖崩れ、大規模な火災などの、
目前に迫った危険から身を守るための場所です。

指定緊急避難場所	洪水・内水氾濫	津波	大規模な火災	地震の揺れ
緑小学校	○	③*	×	○*
緑コミュニティセンター	○	×	×	×
諏訪山緑地保全地区	○	-	×	○

その他、津波からの指定緊急避難場所として、鳴海荘、(株)エム・イー・テック、サンハウス大高駅Ⅱ、レジデンス山腰が指定されています。

※1 緑小学校は西校舎・北校舎が津波避難ビルに指定されています。大津波警報が発令された場合は、3階以上に避難して下さい。
※2 小学校・中学校における、「地震の揺れ」についての避難場所は、グラウンドになります。

指定避難所

・火災や家屋の倒壊、家具の転倒などにより、自宅に住むことが出来なくなった方が、
一定期間、避難生活を送るための施設です。

緑第三A・B、緑第四の区域→緑コミュニティセンター
(TEL 623-9600)
上記以外の区域→緑小学校 (TEL 623-1881)

上記を参考に避難しましょう

【重要】
指定避難所の収容人数には限りがあります。避難所での生活は環境の変化から体調を崩す方も多いため、自宅で避難生活を送るように、家具の固定と、7日分の備蓄を進めましょう。

浸水範囲

あらゆる可能性を考慮した最大クラス

- 2.0m以上～3.0m未満
- 1.5m以上～2.0m未満
- 1.0m以上～1.5m未満
- 0.5m以上～1.0m未満
- 0.3m以上～0.5m未満
- 0.3m未満

【津波避難のポイント】

津波浸水エリアにお住まいの方は、大津波警報が発表されたら、すぐに避難しましょう。津波からの避難の原則は「高台避難」です。津波到達までの時間を使い、出来る限り高台(諏訪山方面)へ避難しましょう。要配慮者の方や時間がないなど高台への避難が困難な場合は、津波避難ビルへ避難しましょう。

【お気づきですか? 海拔表示】

区内で海拔が低く見やすい場所にある電柱・電信柱や官公署(所)、コミュニティセンター、街路灯に海拔が表示されています。日頃からお住まいの場所の海拔を意識して、避難に役立てましょう。



※浸水深は、名古屋市が平成26年2月に公表した「南海トラフ巨大地震の被害想定」をもとに、「あらゆる可能性を考慮した最大クラス」の地震が発生した場合でかつ満潮時に鳴海・緑学区で想定される津波の浸水範囲を示したものです。

凡例

- 指定避難所
- 仮設トイレ設置場所
- 防災スピーカー
- 公衆電話
- NTTが設置する公衆電話は、災害時には優先的につながり、状況に応じて無料になります。但し、国際電話は使えません。
- 6.0 (5.9) 海拔(6m未満は赤字で表示)
- 地下式給水栓設置場所
- 防災倉庫
- AED設置場所
- 避難経路の例
- 土砂災害(特別)警戒区域(土砂災害発生のおそれがある区域)

指定避難所

火災や家屋の倒壊、家具の転倒等により自宅に住むことができなくなった方が、一定期間、避難生活を送るための施設です。

番号	名称	階数
1	緑小学校	
2	緑コミュニティセンター	

一時避難場所

広域避難場所へ避難する際、一時的に避難して火災の様子をうかがう場所です。

番号	名称	階数
3	諏訪山緑地保全地区	
4	鳴海荘	6階
5	(株)エム・イー・テック	5階
6	緑小学校(西校舎) (北校舎)	4階 3階
7	サンハウス大高駅Ⅱ	8階
8	レジデンス山腰	4階

津波避難ビル

大津波警報が発令された場合で、付近に高台がないときに、一時的に避難する場所です。

番号	名称	階数
9	(株)光金属工業所	
10	(株)三洋製作所本社工場	
11	グランドオータ888鳴海店	

地域防災協力事業所

学区と大規模災害時の支援協定に関する覚書を締結している事業所です。

番号	名称
9	(株)光金属工業所
10	(株)三洋製作所本社工場
11	グランドオータ888鳴海店

【その他役に立つ場所】
・コンビニ、スーパーなどの商業施設
・営業していれば物資の調達が可能
・公衆電話が設置されている店舗あり
・病院、診療所、ガソリンスタンドなど

番号	一時集合場所	町内会・自治会名	番号	一時集合場所	町内会・自治会名
12	鳴海荘	京町西※大浜街道西側地区	21	青山南公園	緑第六
13	駐車場(丸内)	緑第一-A	22	セブンイレブン	緑第七
14	駐車場(前之輪)	緑第一-B	23	母呂後店駐車場	京町東
15	ル・フィール	京町西	24	県営諏訪山住宅	青山
16	鳴海店駐車場	緑第二	25	プラザフェニックス	千鳥ヶ丘
17	鳴海八幡宮	緑第三A	26	千鳥ヶ丘駐車場	
18	消防団詰所前	緑第三B		鳴海精機(有)	汐田(中汐田)
19	石堀山公園	緑第三C		鳴海精機(有)第二工場	汐田(下汐田)
20	用水横空地	緑第四			
21	青山公園	緑第五A 緑第五B			

【各町内会・自治会の一時集合場所】 災害発生直後は行政機関が十分に機能しないため、地域の皆さまによる安否確認、初期消火、救助活動が、被害の拡大を防ぐ大きな力となります。まず、自分の身、そして家族の安全を確認後、一時集合場所に集合して自主防災活動に参加しましょう。

縮尺 1:5,200

緑区 緑学区

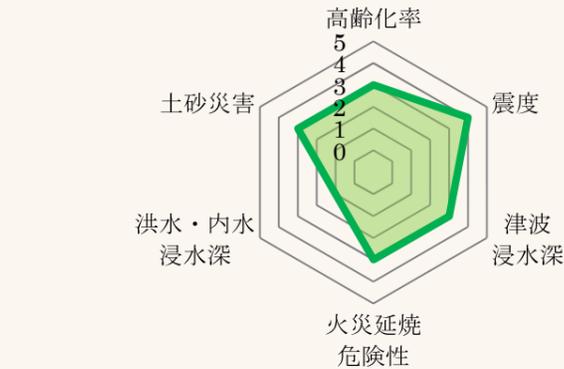
世帯数：3,088世帯 人口：7,173人 面積：1,117㎡ ※平成31年2月1日現在の世帯数と人口より

特性と災害リスク

南海トラフ巨大地震が発生した場合、まずは強い揺れから身を守りましょう。当学区は津波浸水が想定される地域であり、名古屋港への津波到達時間は最短で96分と予測されており、遡上はその後から始まります。この時間を最大限に使い、みんなで助け合って避難しましょう。
火災が発生した場合は、燃えて倒壊する建物が道を塞いだり、強い熱風が吹き荒れる懸念があります。また、液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、泥水が溢れだし、道が通ることができなくなることがあります。これらのことを踏まえ、適切な避難先と、そこまでの安全な経路についてあらかじめ複数考えておきましょう。

リスクレーダーチャート(【STEP1: 地域特性の把握】)

	値	5段階
高齢化率	22.5%	3
震度	6強	4
津波浸水深	1.0m~1.5m未満	3
火災延焼危険性	500~1,000棟未満	3
洪水・内水浸水深	0.5m未満	1
土砂災害	警戒区域に人家10件以上	3



お住まいの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況(密集状況や古いブロック街など)及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災・減災意識を高め、いざという時に備えましょう。
●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用下さい。
<http://www.city.nagoya.jp/bosaikikanri/page/0000110628.html> 名古屋市 地区防災カルテ 検索

地震時の行動

揺れた!!

- 身の安全の確保
 - 頭を守り揺れがおさまるまで待つ
 - 安全に消せる場合は火を消す
 - 家具や家電の転倒や落下、ガラスの破片などに注意

机がない時は、クッション、かばんなどで頭を守りましょう。

自宅の耐震化や家具転倒防止対策を進めておきましょう。

揺れが止まった!!

- 火の元の確認、出火したら初期消火
- 怪我をしないように底の厚い靴やスリッパを履き、出入口の確保
- 家族の安否・家屋の被害状況の確認
- テレビ・ラジオ・スマホなどから正しい情報の入手
- 非常持出品の準備

町内会・自治会単位に結成された自主防災組織があり、災害時に初期消火・救出救護等を行う自主防災組織の活動にご協力をお願いします。

災害の危険解消

自宅での滞在が可能な場合

○ 在宅避難

× 避難先へ

◆自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を!

避難所は多数の方が避難生活を送るため、大きな負担がかかることが想定されます。倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。

- 在宅避難している高齢者や障害者などの声掛け
- 隣りの避難所で避難者登録
- 周囲で食料や物資を分け合う

避必緊急避難要場面は、

- 高齢者や障害者などの避難誘導を
- 原則、徒歩で避難

風水害時の行動

3日前

台風が発生した 情報収集

- テレビ・ラジオ・スマホなどから台風の大きさ・強さや川の水位などの情報を入力

2日前

台風や大雨が来るぞ!! 準備

- 避難ガイドやハザードマップで指定緊急避難場所、指定避難所や浸水想定区域等の確認
- 家族との連絡方法の確認
- 家の周りの飛ばされやすいものや、流されやすいものの片付け

1日前

雨足が強くなってきた!! 避難の判断

- 情報収集を続けて、避難開始時期を判断
- 50cm以上の浸水時は避難に危険が伴うため注意
- 自主的に避難する場合には、事前に区役所へ連絡する

●洪水・内水氾濫の想定浸水深より下の階にいる

●土砂災害警戒区域にいる

●堤防の近くで、安全な建物*にいない

どれか一つ以上該当する → **該当しない** → **自宅などにとどまる**

避難情報の発令等により避難行動!! 避難開始

避難準備・高齢者等避難開始

- 避難の事前準備をする心構えをするために発表するもの。
- 高齢者や障害者が自主避難を開始する目安

避難勧告

- 被害が発生するおそれがあるため、避難をすすめるために発令するもの

避難指示(緊急)

- 被害の危険が目前に切迫し、生命の危険がより高まったため、避難を強くすすめるために発令するもの

ただちに避難! (垂直避難)

- 指定緊急避難場所までの道が危険な場合は、身近な建物のできるだけ上の階へ
- 屋外での避難が危険だと感じたら、自宅の上階へ

一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!



- ◆まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、組、町内などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心に活動します。(安否確認、声かけなど)
- ◆災害の恐れがなくなった後も、避難生活は続きます。自宅(在宅避難)が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。
- ◆「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部(区役所)に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

学区の皆さまへ(ご協力をお願い)

- ◆当学区は、災害時避難行動マップから、**津波による1m未満の浸水並びに土砂災害**について、特に注意すべき地域であることが分かります。皆さまには、普段よりマップの凡例及び記載事項にご注意下さるようお願いいたします。
- ◆大規模災害に備え、このマップを利用して、日頃から**ご近所同士**で話し合っておきましょう。

津波避難のポイント!

津波浸水想定区域内にお住まいの方は、大津波警報が発表されたら、津波到達までの時間を使い、出来る限り「高台」へ避難しましょう。要配慮者の方や時間がないなど高台への避難が困難な場合は、津波避難ビルへ避難しましょう。

土砂災害からの避難

大雨や地震などをきっかけとして、がけ崩れや地すべりなどの土砂災害が発生することがあります。土砂災害には前兆現象がある場合もあります。土砂災害警戒区域では、特に危険性が高いため、いざという時に適切な避難行動がとれるように考えておきましょう。

土砂災害警戒区域

土砂災害警戒区域外の少しでも安全なところに緊急避難!

●土砂災害の避難情報が発表された学区では、土砂災害警戒区域の区域外に避難する。(土砂災害警戒区域は、ハザードマップ等で確認できる)

土砂災害警戒情報

大雨警報(土砂災害)発表後に土砂災害の危険がさらに高まった場合に、市町村単位で、都道府県と気象庁が合同で発表

土砂災害警戒判定メッシュ情報

大雨による土砂災害の危険度の高まりを、地図上で5km四方の領域(メッシュ)ごとに5段階に色分けして示す情報(気象庁ホームページで確認できる)

土砂災害の主な前兆現象

- 斜面にひび割れや膨らみなどの変形が見られるとき
- 斜面から水が噴き出してくるとき
- 水が濁ったり、水量が急に減るとき
- 木立が不揃いになったり、井戸の水が濁るとき
- 斜面から石ころが落ちるとき